

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 教育学部、教育学研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
教育学部、教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 教育学部、教育学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 4)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 「重点分野研究プロジェクト」を平成 28 年度に創設した。採択したプロジェクトに対して、平成 28 年度から総額 38,422 千円を配分し、その結果、著書 18 件、論文 46 件、学会発表 65 件、その他研修会開催等 270 件の研究成果を上げた
- 令和元年度の基盤研究（B）の受入額は、第 2 期中期目標期間以降最高額となる 51,480 千円となった。また、科研費の申請率全体についても第 2 期中期目標期間から平均で 8.7 ポイント上昇（第 2 期中期目標期間平均：63.5%、第 3 期中期目標期間平均：72.2%）した

〔特色ある点〕

- 地域の課題解決に取り組む実践研究として「ソーシャルクリニック（SC）事業」を展開している

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、6 件、2 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。